

健康増進 AIで研究

弘大、NECが共同講座

弘前大学は日本電気（NEC）と東京と共同で、病気リスクを推定するプロ

済みで期間は3年間。NECは外見や動作などのデータを解析して人を精密にモデル化する技術を持ち、研究開発に応用する。個人個人へのヘルスケア提供を目指す。

NECは今年の「岩木健康増進プロジェクト健診（岩木健診）」に初参加し、顔の動画データを集めるブースなどを出展している。

共同研究講座のプレートを手にする福田学長（左から2人目）と山田研究開発部門長（同3人目）ら



設置開設式では、弘大の福田眞作学長が「ぜひわれわれが持つビッグデータを活用し、これまでになかったような知見を見いだしてほしい」、NECの山田昭雄コーポレートSVP（執行役員）兼研究開発部門長は

「弘前大のCOIネクスト事業が目指す、一人一人の健康に寄り添う社会の実現をともに目指していきたい」と語った。（菅井大輔）

プログラムの開発に取り組む。弘大などが行う「岩木健康増進プロジェクト」のビッグデータとNEC独自の人工知能（AI）を組み合わせることで、脳卒中や心疾患、心身の機能低下、認知症など多様な病気の予防につなげたい考え。7日、弘大医学部で共同研究講座「ヘルスケアAIシステム学講座」の設置開設式が行われた。

講座は4月1日付で設置